





短髮教

R-18





導入

絶賛を蒙っている私が家に帰ると、
そこには十八禁のエロ同人誌が雑然然とよって無様に散らかされていた。
彼女は「おなじみのニヤニヤしながら近づいてきて」「ニヤニヤした。

「スウズンとニヤニヤ。」

「おなじみのニヤニヤ……
おなじみのニヤニヤ……
おなじみのニヤニヤ……」



おお、
相変わらず元気がいいねえ…。
今からしゃぶしゃぶして
あげるからねえ。

はっ

んっ

しゃぶ♡



んっ♡

ジュルルル

いっぱい出たね…。
そろそろこっちにもちよーだい。
もう我慢できないの…。



あん♡

おっきいのが私の中に入ってくるぅ！♡♡

んっ♡
ズキッ

ズキッ

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡





ちよつとタイム!
このままだと...その...
出ちやいそうなのだからn





もう、

意地悪なんだから...

ヒッ

ヒッ

ヒッヒッ

ヒッヒッヒッ

ヒッ



エ
ン
♪

仕方ないなあ…。
私が全部搾りつくしてあげる！



おん

ビ
ン
ビ
ン

ってまだ元気なのか…。



んんん！
さっきよりも元気になってて
深いところに刺さってるうん。



たゆん

ズ
ン

ビ
ン



ひん♡

ん♡

ん♡

ん♡

私に恥をかかせた分
君のせーえきを一滴残らず
出させてみせるんだからあ！

もつと...。
もつと激しく動いてえ！

ん♡

ん♡

ん♡



あつ！出そうなのね！
私の中にたくさん注いでえ！





完